

挑む 中小企業

第37回神奈川工業技術開発大賞

▶ 1



小杉恵美社長

ロシア軍がウクライナに侵攻したのは昨年2月。米マイクロソフトが公表した報告書によると、その約1年前、ロシア側の攻撃はサイバー空間で既に始まっていた。日本国内でもウクライナ侵攻後、身代金要求型ウイルスの被害は「極めて深刻な状況」（松野博一官房長官）に陥っている。警察庁によると、昨年上半年に国内で確認された被害は114件でほぼ倍増した。

サイバー攻撃の脅威が増しているのは、ストレージ（記憶装置）の主流がクラウドに移行する近年、データをオンライン環境で保管しているからだ。そのリスクを回避できるストレージとして、オフラインで磁気テープにデータを保存する技術「LTO」（リニア・テープ・オープン）が再び

大賞 ユニテックス (相模原市南区)

注目されている。

LTO機器の接続規格が限られていたこの業界で、汎用性に着目したのがユニテックスだ。2012年に開発した機器に世界で初めてUSBポートを搭載、ノートパソコンからもデータを転送できるとした。

機密性が高く、膨大なデータを取り扱う国内外の官公庁やメディアからの需要が高まり、25万円で事業を展開。同社の理念である「町田から世界へ」を体現する。

テープストレージが登場したのは1951年。カセットテープやビデオテープ（VHS）が身近だったが、90年代以降に普及した処理が高速なハードディスク（HDD）やソリッドステートドライブ（SSD）に淘汰された。クラウド全盛の現代で先祖返りしたようだが、小杉恵美社長は「テ

大賞のLTO機器(手前)。ユニテックスは「サッカー」2.FC町田ゼルビアとパートナー契約を結び、選手データを認識するアーカイブシステムでLTOを活用している。



ープは別次元に進化し確実に復権している」と言う。

昨年発売した最新モデルは、さらに大容量の保存に対応。テープカートリッジ1巻に保存できるデータ量は最大でVHS4千本近くに相当する。ストレスフリーな転送速度にも磨きがかかった。デジタルトランスフォーメーション（DX）化やIoT（モノのインターネット）の普及で国際的なデジタルデータ量は急増。米調査会社によると、2020年と比べ25年には3倍の17.5セタバイトに達し、二酸化炭素（CO₂）排出量

一方でアクセス頻度が高い「ホットデータ」は全体の1〜2割程度で、ほとんどが目の見えない長期保存されている「コールドデータ」という。「ホットはクラウド、コールドはLTO。これからは保存先をハイブリッドに選り分ける時代になる」。小杉さんは展望する。

ハードウェア機器に通電せずにデータを保管できるLTOは、環境性能も抜群だ。業界団体によると、HDDやSSD機器による保存と比べ、二酸化炭素（CO₂）排出量

と消費電力は1割弱という。セキュリティ、容量、省エネの「三方よし」のLTOに「時代が追い付いてきた」と小杉さん。USBの汎用性を兼ね備えた製品は無二だ。

「ユニークなテクノロジー」を社名に込めて創業した父・土田義徳さんの理念を、2代目社長の小杉さんは受け継ぐ。スマートフォンやタブレットに対応したコードレス製品の開発にも挑戦する。

（川島 秀宣）

第37回神奈川工業技術開発大賞（県、神奈川県新聞社共催）で、県内中堅・中小企業6社の受賞が決まった。それぞれの卓越した工業技術や製品を紹介する。

◆ユニテックス
1990年10月設立。データストレージ製品の開発・販売。資本金9千万円。従業員70人。東京都町田市に本社、相模原市南区に2事業所を構える。

テープ保存に汎用性